

謹賀新年

圓福寺報



平成16年 元旦

圓福寺報 第四十号

平成十六年一月一日発行

発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺

千葉市稲毛区穴川町三七五 TEL (二五二) 九一八一

E-mail: enpukuji@come.bnet.co.jp

http://www.bnet.co.jp/enpukuji/

目次

年頭法話

「ないない」から「ありあり」へ 2

第五回四国あるき遍路の旅 4

「道中記」 幸町 小貫 晃さん

子どもたちの感じたお寺 8

禅童会参加者感想文

総合学習でお寺を見学して

お寺と和尚の記録抄 11

平成十六年年間行事案内 12

「写経会」「詠歌」「土曜会」案内 13

——参加者募集中

第18回花園会ゴルフ大会報告 14

平成十六年回表 15

第六回四国あるき遍路のご案内 15

新しい供養塔のご紹介 15

圓福寺新年会のご案内 16

※表紙は、星久喜町 吉田 和子さんの作品です。

年頭法話

「ないない」から「ありあり」へ

昨年、入院費用の保険に入りま
した。保険加入に際して、健康診
断を受けると、心電図に異常が認
められ、保険料が二割アップです
というのです。また、お参りに
行った先で、和尚さんは何か健康
法みたいなものをしていますか、
と聞かれました。どちらも、身に
覚えがなく、どきつとさせられま
した。

最近「健康で長生きを」とい
う食品や機器が多く出回っていま
す。その効能には、私たちの購買
意欲をくすぐる言葉が並べ立てら
れています。しかし、長生きした
命をどう生かすかということにつ
いては書かれていません。人生の
目的・価値はただ単に長く生きる

ことではなく、どう生きたかであ
り、自らの生命をどう生かすか
あることは言うまでもありません。

人は皆、平等に二十四時間を与
えられています。決して働き者だ
から二十八時間与えるということ
はありません。逆に怠け者だから
といって二十時間ということもあ
りません。ただ与えられた時間の
使い方に差が出るのです。二人の
若者に同じ仕事を一時間という時
間を限って与えたとします。そし
て、残り十分となった時、もう十
分しかないとあせるか、まだ十分
あると見直すか、ここに大
きな差がついてしまします。そん
なことは頭ではわかっているのに

すが、時間が「ない、ない」と言
うことが多く、限られた時間の使
い方を忘れがちです。

また、現代は物質的に大変恵ま
れ、有り余る物の中で生活をして
いながら、ないないと不満を抱い
て過ごしている人が多くおり、も
のも時間もないない尽くしの現代
人がたくさんいます。

しかし、自らを顧みるとき、私
たちに備わっている、見える目・
聞ける耳・味わえる舌・香れる
鼻・持てる手・歩ける足、どれ一
つ取っても有り難いことでありま
す。今ここにこうして命を頂いた
という事実だけでも有難いので
す。実は、私たちは「ある、あ
る」の世界で生活しているのだと
気づくはずですが。それなのに、な
いといって迷っている所に、自ら
が自らの命を生かせないでいる原
因があるのでないでしょうか。

『徒然草』の中に次のような一文があります

「道を求めている人は、未来の日月を惜しむことはしない、ただこの一瞬を空しく過ごすことを惜しむ。(略)人は死を憎むならば今ある生を愛することです。今命のあることを喜びなさい。愚かな人は、内にある生命という財産を忘れて、他に財を求めするために、満足を得ることはない。」

圓福寺の四国あるき遍路も第五回を数えました。初回から参加しているAさんは、定年退職を機に、一人で四国遍路にでかけました。定年退職したら一人で四国に行きたいという夢の実現に向け、日々トレーニングを怠らず、圓福寺あるき遍路の健脚ナンバーワンです。十月下旬に出かけましたので、第五回あるき遍路隊が高知に行く頃には、八十八ヶ所も最後の

頃だろうと思っていました。ところが、そのAさんが、十一月下旬の坐禅会に顔を出すではありませんか。もしか、健脚のAさんがリタイヤ・・・と思ったら、なんと三十八日間で回りきったということです。

Aさんはいいます。定年退職をしたら時間ができるから、四国遍路をと思ったにもかかわらず、結局四国に行ってもサラリーマンの性が抜けずに、お昼までに〇〇に着かなければ、今日は〇〇まで行かなければと時間に追われ、いかにしたら無駄なく効率よく回れるかばかり考えていました、と。

徒然草にある「未来の日月を惜しむ」ことばかり考えて歩いていたのではないでしょうか。三十八日間が、「この一瞬を空しく過ごす」ことにならなければいいと考えさせられました。

人生に喜怒哀楽があるように、自らの生命を生かす場は、仕事だけでなく、遊びの時、ふと立ち止まる時にもあるに違いありません。遍路の夢は、ただ八十八ヶ所を回りきることだけでなく、日々の一歩一歩にあふれているのです。三十三番雪蹊寺の門前に「人生即遍路」と石に刻まれてあったのを思い出します。

ものに関しては、自らの命という財産のありがたさを思い、時間に関しては、だれもが迎える死という期限付の時間の使い方を考えることで、ないないの生活からあるあるの有り難さを感じる生活を送ることができると違いありません。

みなさんの今年一年が、生き生きとした命が「あり、あり」と感じられるよき一年でありますことを、お祈り申し上げます。



第五回四国あるき遍路の旅「道中記」

小貫 晃 記

第一日目
平成十五年十一月二十八日
(金) 交通
歩行距離八、九キロ
羽田空港の
テレビは、高知の天気を100%雨と報じる。朝八時三十五分羽田空港を飛び立ち、雨の中を高知竜馬空港にランディング。他に乗る人もおらず、貸し切りバス(?)にて御免町に着く。電車に乗り換

え、土佐一宮駅で下車。雨具に身を包み、十一時半、いよいよ遍路の歩き旅となる。宗格和尚のポンチヨ姿が異彩を放つ。二十分ほど三十番札所善楽寺に着く。本堂は未だ新しさを残す。宗格和尚が木魚を叩き浪々と般若心経を唱える。一同これに和す。しばし解脱の向こうを見る。本堂と対照に歴史を感じる大師堂に移り般若心経を奉納する。
当地のスーパード内の食堂で昼食をとった後、雨の中バスにて南御座に着く。ここから市街を歩く。森の中に三十一番竹林寺が佇む。仁王門は歴史の奥深さを思わせ、参道は長く緑陰に包まれている。大師堂は改築中であり、大師像は



「うしろすがたのしごねてゆくが」

(山頭火)

本堂に収められていた。宗格和尚の叩く木魚の音と般若心経の唱和が古刹の中に吸い込まれていく。白装束の清水さんが回廊で御詠歌を吟じる。一同聞きほれる。紅葉には少し早い。五重塔が紅葉に包まれたら絶景だろうと思いつつ参道を降りる。真向かいの牧野植物園を訪れた後、五台山橋からバス、路面電車に乗り継ぎ高知城前で降り、新阪急ホテルに着く。



本日の降水確率は50%。七時半、はりまや橋からバスに乗り、峰寺で下

夕食は近くの○○という居酒屋で、無国籍料理。ここで石井さんが一同をビデオに撮影。あの優しい声で、「参加した動機は？」「何回目？」「感想は？」と質問し、果ては個人情報まで多彩に亘る。広渡さんが「私と同じ年でしょ。もっとしっかり歩きなさい。」と一矢を報いる。以後石井さんは「監督！」と呼ばれる。

第二日 二十九日(土)
交通歩行距離 約二十キロ

車。雨の中遍路道を登り三十二番禅師峰寺ぜんじふしに着く。ここから雨に煙る土佐湾を望む。白波帯びて眺望広し。空海というお名を思わせる広漠たる空と海。峰寺を出て、雨が降ったり止んだりする中、梶ヶ浦渡船場を目指す。住宅街を歩く。家々に咲く季節はずれのアサガオ、文旦の実を見て楽しむ。種崎から無料の渡船に乗り、五分で対岸の長浜に着く。お昼近く三十三番雪蹊寺に着く。山門を入って右に大きな鐘楼がある。本堂は工事中で、左側にある仮本堂で宗格和尚の木魚に合わせて般若心経を唱える。続いて大師堂でお参りする。宗派は臨済宗妙心寺派という。圓福寺と同じで親近感を持つ。宗格和尚が「うちの大師堂とどっちが立派でしょうかネー」と答えにくいことをおっしゃる。

お寺の前の高知屋さんと言う旅



館兼食堂でうどんの昼食をとる。皆、異口同音に「つゆが旨い」という。食後にアイスクリン(クリームではない)を食べる。昔懐かしい味だ。
十二時半、種間寺たねまじを目指して歩くと集落を抜けて田園地帯が広がる。用水路沿いに集落が点々とする。車が通り窓を開け、運転席から「がんばって！」と手を出して振る若い女性。「ありがとう」と応える。運転中なのでちよつと怖い。曇りと小雨の入れ替わる中を進む。畑と川を眺めながら、「早



春の芽吹く頃に訪れたらいいねえ」と話し合う。午後一時五十分、雨の中三十四番種間寺に着く。本堂は鉄筋コンクリート作りで新しく見える。相変わらず元気に先導する宗格和尚の声に和し、本堂、大師堂の前で般若心経を唱和する。

本堂の向かいに観音堂があり、底のない柄杓が奉納されている。安産を祈願するお堂という。同行の女性陣が祈願するかと密かに期待していたが、期待はずれであつた。平均

年齢を考
えれば、
もつとも
である。
お参り
が終わり
て、門前
の茶店で

おやつをとる。珍しいのでニッキ水を飲む。残念ながら気持ちが悪くなった。慣れない水は怖い。

午後三時、歩き始める。土地の人が四万十川よりきれいと自慢する仁淀川の大橋の所で、今晚泊まる国民宿舎「土佐」の職員さんにピックアップしていただき、三十六番青龍寺^{しょうりゅうじ}まで連れて行っていただく。午後四時五十五分、滑り込みセーフで寺務所前に着く。この地は大相撲の横綱となった青年がトレーニングをした所という。鯉が滝を登って龍と成り、空に舞い上がって雲と嵐を呼び起こすが如く、ここは彼にとって文字通り登竜門だったのだろう。彼こそは、朝青龍明德その人であり、その名を寺名と母校の名前からいただいたのだろうと感慨にふけていた。すると、耕^{つとむ}君が石段を二段ずつ駆け上がっていった。この石段

が、彼にとって登竜門足らんことを願い、我々も後に続く。仁王門をくぐると、石段が急勾配で長い。左に滝が見える。階段は百段位あるという。樹木に囲まれ、うっそうとしている。登りきった真向かいが本堂である。人気はない。背後も森に包まれている。左手に大師堂が建つ。宗格和尚の叩く木魚の音が夕闇の中で響き、般若心経の合唱がこれに和す。諸堂も、木々も、遍路人も夕闇の中で一つになって今日の帳が下りようとしている。

六時前に国民宿舎に着き、露天風呂を楽しむ早めの就寝となる。

第三日 三十日(日)

交通歩行距離 約五キロ

横浪黒潮ラインの入口にある国民宿舎「土佐」は、山の上に立地し眺望すこぶるよいが、あいにく

曇っている。宿舎の前で集合写真を撮って、十時半にマイクロバスで出発。ご親切に、これから参拝するお寺の山麓近くまで乗せていただく。三十五番清滝寺きよたきじは山の中腹にあって遙か森の中に見える。文旦の段々畑を右に見て、竹林に覆われた遍路道を登っていくと、古色蒼然たる仁王門に辿り着く。そこからまた石段が続き、山門をくぐって本堂の前に立つ。右側の大イチョウは黄葉が真っ盛り。この三日間遍路の旅をしてきたが、紅（黄）葉には少し早かったので、イチョウの黄葉には殊のほか「秋」を感じる。左側にご本尊の大きな薬師如来像が立つ。本堂の前まで上がると、左に大師堂が配置されている。右に大きな時計が立っている。いささか無粋か。右奥は細い滝が流れ落ちている。上は森である。閑静な佇まいであ

る。こういう中でお遍路の最後のお参りが始まる。一同心して般若心経を合唱する。宗格和尚の叩く木魚が一期一会と胸にしみる。締めくくりは何時もの通り、石川カメラウーマン（？）の撮る集合写真である。この後、どつとお遍路さんが集まってきた。車による行路である。これもご時世であろう。昼食は大五郎という焼肉店で焼肉以外のセットもの、うどん、混ぜご飯などを食べる。なぜか先にショートケーキが出てきた。しかし、食べるのは食後にした。午後二時、ここから二班に別れ、一班は桂浜、他は高知城、日曜市の観光を夫々楽しんだ。このあと、高知駅に集合し、夕方五時から七時少し前に飛び立ち、羽田に夜八時近くに着き、解散する。



お遍路は雨の中大変でしたが、宗格和尚と共に、歩きを主にした得難い経験でした。福田さんには幹事をしていただき、いろいろご苦勞をおかけし、納経のお世話までしていただきました。道中、皆様がそれぞれの立場で助け合い、不満らしい不満も言わず、笑顔で無事帰って来られました。「同行二人」。ありがとうございます。合掌

子どもたちの感じたお寺

——禅童会・総合学習での見学を通して

長かった坐禅

草野小六年 林田 萌

私は禅童会に来たのが三度目です。一回目、二回目は坐禅の時、もそもぞ動いたりしてしまったので、今年こそは！と意気込んで禅童会に来ました。でも最初の一回目の時は手を動かしてしまいました。私は二回目の前半三十分を動かないようにしようと思いい、自分と約束をしました。

そして二回目の坐禅が始まりました。

私は、動かないように足を動かさなくてもがまんができるかどうかいい



所までもって行って、背中をピンと伸ばして、こしにギュッと力を入れました。

十分位たったころ、こしが痛くなってきました。まだ十分位しかたっていないのに、もう三十分以上たっているような気がしました。とても時間がゆっくり進んでいるような気がして、心の中で「早く終わって〜！」とさけびました。そうしたらおしーさんが

「たく」というのと、「チーン」音の鳴るものを鳴らして「手をあわせて足をくずすいいですよ」、と言ったので「やったー、や」と終わった！と心の

中で言ってしまうました。私は今度、後半の三十分をがんばろうとしました。前半は動か

ないでできたので、後半もできる！と思って自信がきました。だけど後半は、前半よりもずっと長いような気がしました。前半とはたった五分くらいの差なのに、とても長く感じました。

私は「三十分ってこんなに長かったつけ？と心の中で思いました。

「カチツ、カチツ・・・チーン」と「たく」とあとのチーンと音の鳴るものが鳴り、おしーさんが足をくずしていいと言ったので、すぐに足をくずしました。

終わってなにもしないでじっとして一時間とはこんなに長かったんだ！、と思いました。

三回目の坐禅は朝のおつとめといっしょだったので、とてもはやく終わりました。





私は坐禅でも少しもぞ動いてしまふ方だったので、動かないで坐禅ができたという喜びは知りませんでした。でもこの三回目の禅童会で自分の目標がたっせい出来たので、本当にこの禅童会に来てよかったなあ、と思いました。そしてまた来年も禅童会に来たいです。

この三回目の禅童会できちんと坐禅が出来たので、来年は完ペキにして禅童会を終わりたいです。

禅童会に出て・・・

草野小六年 恩田 友美子

私は、禅童会に出て、一番おもしろかったのは、うどん作りです。自分たちで、作って食べたので、いつも

より、とてもおいしく、感じられました。私は、自分たちで、作ったうどんを食べ、お母さんは、毎日、私たちのために、ご飯を作ってくれているということを考えて、「これからは、できるだけ、残さないように、食べたいな。」と思いました。

あと、坐禅をしていて、昔から、こんなに足がすぐ痛くなるような（半分は、私のすわり方が原因）しゅぎょうをしている人がいるなんて、「すごいなあ。」と思いながら、やっていました。

私は、禅童会で「一番いやだなあ。」と思った時間は、ご飯の時間です。私は、禅童会に行く前に心配していた事が二つあります。一つ目は、時間内に全部食べ終わるかということ。私は、食べるのがおそいのです。（家でもピリ。）二つ目は、じはつを洗う時です。去年、じはつを洗う時、お湯が熱かったのでもう洗えませんでした。今年も、少し熱かったので、

洗うのがおそかったです。あと、洗ったあとのお湯をのむのも、少しいやだったです。

禅童会で、一番楽しかったことは、絵をどうろうにはる、絵や言葉をかいた時です。私たちが作ったどうろう、毎年、みたまおくりの時にかざられるので、少しがんばりました。

後、夜のレクの映画を見て、生きていくうちに悪いことをすると、地ごとくに行くので、なるべく、私はうそをついたりしないで、人の話は最後まで聞くように心がけたいと思います。

お経の練習の時、私は、禅童会に来て、三回目なので、なるべく、自信をもって、大きな声で、言うことができました。もう、「魔訶般若波羅蜜多心経」は覚えたので、次は「ちがうのを練習したいなあ。」と思いました。

禅童会は、とても楽しいので、また来年もこれるといいなあと思いました。



◆◆千葉大教育学部附属小学校、高学年総合学習「日本文化を学ぼう」グループのお寺見学感想文◆◆

川野 りさ

十一月十九日、私達にお寺の事について教えて下さり、ありがとうございます。私は神社に行った事は数回ありますが、お寺を見学するのは初めてでした。私は今年の五月までアメリカに住んでいたのですが、神社やお寺などの日本にしかないものを見る機会があまりありませんでした。

まず印象に残ったのは、本堂にある立派な仏壇でした。金色に染まった仏壇が太陽の光で耀いていたのが、とても美しいと思いました。また、木魚は初めて見ました。すばらしい「日本らしい」音だな、と思いました。入口の前にある池も、きれいだな、と思いました。



お寺見学でまた新しい日本の文化を覚える事ができました。

飯田 愛

先週はおじやまさせていただきまして、まことにありがとうございます。日本情緒豊かな建物の中に入ると、何か心の中でほっとするような安心するような、ゆったりとした気持ちになりました。

毎日、時間におわれて生活しているのに、お寺の中は、時間がとまったようなふしぎな気持ちになりました。お庭に、たくさんのかわいらしい仏像様がこちらをのぞいているのが、まるで生きているようでした。ふだん見られないような物がたくさんありました。

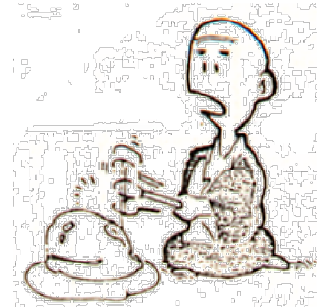
毎月、川崎大師までお参りに行きますが、身近にもお寺があったことを知りましたので、今度は圓福寺におまいりに来たいと思います。



川出 知行

この前はともありがありがとうございました。お寺のいろいろな所を見学させていただき、とても参考になりました。特に大きな木魚がおもしろいと思いました。ぜひ一回たたきたかったです。

おしゃかさまの像やお墓も見せていただいて、いろいろな勉強になりました。一休さんが本当にいた人物だとは知りませんでした。ほかにも、お寺はなぜあるのか？という話を聞いて、心の洗濯をする所とは、知りませんでした。よくも心の洗濯をしたいなあと、思った時があったなと思いました。また機会があったら、お寺に行きたいと思えます。



平成十五年下半期お寺和尚の記録抄

7月26日～27日	圓福寺寺子屋「禪童会」
30日	社会保険センター、「写経」講座
30日～31日	本山学徒研修会 於妙心寺
8月8日	社会保険センター、「坐禅」講座
10日～16日	八月盆棚経
14日	佐倉報恩寺施餓鬼
15日	佐倉宝樹院施餓鬼
16日	佐倉円心寺施餓鬼
17日	四街道清久寺施餓鬼
18日	取手長禅寺施餓鬼・法話
20日	社会保険センター、「写経」講座
22日	社会保険センター、「坐禅」講座
23日	地藏盆
9月12日	社会保険センター、「坐禅」講座
16日	御詠歌練習日
17日	社会保険センター、「写経」講座
20日	根岸円光寺秋彼岸会・法話
10月1日	土曜会「法話会」
6日～7日	社会保険センター、「写経」講座
10日	無相教会御詠歌全国大会 於妙心寺
11日	社会保険センター、「坐禅」講座
15日	幼稚園運動会
22日	社会保険センター、「写経」講座
	妙心寺派東京教区住職研修会 於上野

11月1日	幼稚園新入園児願書受付
24日	社会保険センター、「坐禅」講座
26日	涅槃精舎毎歳法要、ドルチエコンサート
29日	第十八回花園会「ゴルフ大会 市原京急GC
	七組、二十八名参加
5日	来年度の新入園児として、3才児53名・4才児35名を受付しました。
15日	社会保険センター、「写経」講座
19日	岩手霊桃寺花園会と交流会
21日	千葉大附属小、総合学習にて見学に来山
28日～30日	社会保険センター、「写経」講座
	第五回四国あるき遍路の旅
	(二十番～二十六番まで) 十五名参加
12月2日～3日	東京教区第七部支所長交代茶礼 於福島
13日	小見川樹林寺先住職一周忌
20日	年末ボランテラ・花園会忘年会
31日	大晦日・年越まいり
1月1日	元旦・元朝まいり・新春ご祈祷

▽毎週木曜日午後六時～ 木曜坐禅会
 坐禅三十分二回、終わって茶話。無料。初心者歓迎。

▽毎月第一・第三土曜日午後一時半～ 茶禅会
 裏千家池田宗成先生指導、月謝二千円。

平成十六年 年間行事予定表

【一月一日〜三日】

元朝まいり・新年修正会

仏教興隆・国家安泰・五穀豊穰・檀信徒各家の繁栄などを祈禱する法要をしています。

この修正会で祈禱した「般若札」は、寺報・カレンダーなどと一緒に、みなさまにお届けいたします。

【一月十八日】

花園会新年会

寺報十六頁のご案内をご覧ください。



【二月五日】

涅槃会

お釈迦様のお亡くなりになった日。涅槃会の掛け軸を掛けて法要をします。

【二月二十七日〜二十九日】

第六回四国あるき遍路の旅

【三月十四日】

彼岸会法要・前住職三回忌

あらためてご案内を郵送いたします。

【三月十八日〜二十四日】

春彼岸

【三月二十六日〜二十八日】

圓福寺冬の寺子屋



【四月八日】

降誕会

お釈迦様のお生まれになった日。「はなまつり」。



【五月十二日】

第十九回花園会ゴルフ大会

【七月三日】

初盆・新入檀信徒施餓鬼会

この日は、初盆のほとけさまと、圓福寺と新しくご縁のできたほとけさまの施餓鬼会をいたします。あらためてご案内を差し上げます。

【七月四日】

山門大施餓鬼会

【七月十日〜十六日】

七月盆の棚経

みなさまのお宅に棚経にお伺いします。

【七月二十四日〜二十五日】

圓福寺寺子屋「禅童会」

子どもたちの坐禅会です。坐禅だけでなく、楽しいゲームやいろいろな体験もできます。たくさんさんの参加を待っています。

【八月十日〜十六日】

八月お盆の棚経

みなさまのお宅に棚経にお伺いします。

【八月二十一日】

地藏盆

水子・人形・ペット供養 子どもたちの楽しいお盆の行事です。夜店やゲーム大会など盛り上がります。地藏盆供養の法要も行います。



【九月二十日〜二十六日】

秋彼岸

【十月五日】

達磨忌

禅宗初祖「達磨大師」のご命日。

【十月二十四日】

涅槃精舎毎歳法要

永代供養の方々の法要と、授戒会。

【十一月十六日】

第二十回花園会ゴルフ大会

【十一月二十六日〜二十八日】

第七回四国あるき遍路の旅

【十二月八日】

成道会

お釈迦様がお悟りを開かれた日です。

【十二月三十一日】

年越しまいり

あまぎけ・年越しそば・福たるま・新春祈

禱など、たくさんお参り下さい。



写経会

【前期期日】

【後期期日】

- 二月一日 七月十八日
- 三月七日 八月一日
- 四月四日 九月五日
- 五月二日 十月三日
- 六月六日 十一月七日

【時間】

日曜日午後一時半～三時半

【会費】

一期五回で、花園会員二千円
会員外 五千円

【用意するもの】

小筆、硯、墨、半紙

【定員】

二十名

【申込】

お寺までご連絡ください。

【講師】

斉藤 加代子先生・住職



御詠歌

花園流ご詠歌の支部結成に向けて、練習をはじめていきます。ご興味のある方は、男女問わずお寺までお気軽にお問合せください。ただいま男性三名、女性四名ほどの初心者ばかりで、自主練習しています。

見学歓迎、参加更に大歓迎です。

【期日】

- 一月二十七日
- 二月二十四日
- 三月三十日

【時間】

火曜日午後六時～八時

【会費】

なし

【定員】

たくさん

【申込】

特に必要なし。
問合せはお寺まで。



土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、お寺に集まり懇親・談笑する自由空間です。

【期日】

- 二月二十一日 春の俳句講座
- 三月二十日 法話会
- 四月十七日 (未定)
- 五月十五日 夏の俳句講座
- 六月十九日 (未定)

【時間】

土曜日午後六時～

テーマイベントの後、懇親会

【会費】

花園会員 男性 二千円

女性 千円

花園会員外 男性 三千円

女性 千円

【申込】

お寺までご連絡ください。



第18回 花園会ゴルフ大会



【市原京急GC、十月二十九日】大会史上、最多の参加者、七組二十八名を集め、初秋のグリーンに熱戦が繰り広げられた。また、女性の参加が七名となり、女子の部も設けられ、こちらにも熱戦を展開した。

優勝は、何年かぶりのスコア、若いころのスコアが出たと謙遜する福田雅男さん。設計士という職業柄、緻密なゴルフで他の追随を許さず、恒例の豪華賞品を持ち帰った。

毎回幹事を務めてくれる小山稔さん

が、幹事をしながらの準優勝は実力発揮の一言である。

一方、女子の部は、肩が痛いとか、しばらくやっていないとか言っていた古原澄子さんが、女子の部初代チャンピオンとなった。

総合でも、三位となり、抱えきれない賞品を女性同士で分け合っていた。ご詠歌を習い始め、そのゆったりしたリズムがスイングにも好影響をもたらした模様である。

なお、参加者には、池ポチャ・四パットなどの罰金が課せられており、今回の罰金二万一千七百円は、妙心寺花園会本部へ、「おかげさま献金」として寄付させていただきます。

	氏名	ハディ	グロス	ネット
優勝	福田 雅男	19	93	74
準優勝	小山 稔	11	87	76
3	古原 澄子	40	116	76
4	中島 市郎	36	113	77
5	水谷 昌平	25	103	78
6	柴田 祥子	31	112	81
7	向畑 鉄雄	9	91	82
8	大野 欣一	13	95	82
9	杉本 朝春	19	102	83
10	岡本 報頭	3	86	83
11	柴田 勝美	0	85	85
12	正岡 宗之	11	96	85
13	井野 みどり	17	104	87
14	福田 和夫	20	107	87
15	永倉 東岳	24	111	87
16	佐藤 とも子	31	118	87
17	小高 美晃	30	118	88
18	武 光俊	11	100	89
19	永田 猛	23	112	89
20	佐藤 征吾	5	96	91
21	香坂 千香子	40	131	91
22	塩月 敦子	40	132	92
23	石田 和夫	15	108	93
24	宮田 宗格	17	110	93
25	鈴木 玄哲	19	115	96
26	塩月 高泰	12	109	97
ブービー賞	西脇 利弘	27	126	99
BM賞	杉本 きみ子	40	143	103

が、幹事をしながらの準優勝は実力発揮の一言である。

一方、女子の部は、肩が痛いとか、しばらくやっていないとか言っていた古原澄子さんが、女子の部初代チャンピオンとなった。

総合でも、三位となり、抱えきれない賞品を女性同士で分け合っていた。ご詠歌を習い始め、そのゆったりしたリズムがスイングにも好影響をもたらした模様である。

女子の部

	氏名	ハディ	グロス	ネット
優勝	古原 澄子	40	116	76
準優勝	柴田 祥子	31	112	81
3	井野 みどり	17	104	87
4	佐藤 とも子	31	118	87
5	香坂 千香子	40	131	91
6	塩月 敦子	40	132	92
7	杉本 きみ子	40	143	103

ベストグロス		柴田 勝美	85
ドラコン	小山 稔	ニアピン	塩月 高泰
	小山 稔		鈴木 玄哲
	杉本 朝春		中島 市郎
	岡本 報頭		塩月 高泰
	向畑 鉄雄		福田 和夫
	佐藤 征吾		武 光俊
	福田 雅男		向畑 鉄雄
福田 雅男	福田 雅男		

平成十六年 年忌表

回数忌	亡くなった年
一周忌	平成十五年
三回忌	平成十四年
七回忌	平成十年
十三回忌	平成四年
十七回忌	昭和六十三年
二十三回忌	昭和五十七年
二十七回忌	昭和五十三年
三十三回忌	昭和四十七年
五十回忌	昭和三十年

本堂法要後のお斎（お食事）に、書院をお使いください。法要後の移動もなく、お参りに来られた方にご不便をかけることなく参ります。お料理も、精進料理・懐石料理などご用意できます。お寺までお問合せください。

第六回 四国あるき遍路の旅



三十七番〜三十九番、いよいよ修行の道場といわれる南国土佐の締めくくりです。途中、清流四万十川や足摺岬にも寄ります。

募集人数 十二名（但し、人数が多い場合は二班に分ける場合もあります。）
旅 程（あくまで予定です。）

二月二十七日（金）
 飛行機で高知空港へ。電車にて中村へ向う。途中下車し三十七番参拝。再び電車に乗り、三十九番へ。中村市に戻り宿泊。

二月二十八日（土）
 中村よりバスにて足摺に向かい、途中から遍路道を歩いて庄十八番へ。足摺泊。

二月二十九日（日）
 足摺から宿毛に出て、時間があれば愛媛県に入り、四十番を参拝後、宇和島経由、松山空港から帰路。
参加費 五〜六万円ぐらいを予定しています。

永田さん母子の供養塔完成

永田猛様の奥様の一周忌にあわせ、奥様にちなんだ観音像の開眼とご子息望さんの供養塔「望地藏」の移転安座供養をいたしました。

永田さんのご好意で、ペットの供養塔にもなっており、ペットの埋骨ができます。ペット供養される方はお寺まで、お問合せ下さい。

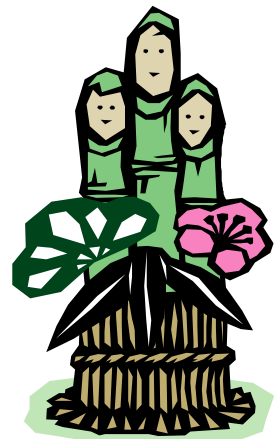




毎年恒例

圓福寺新年会のご案内

——毎年、和やかな楽しい新年会をしております。たくさんのみなさんのお越しをお待ちしております。



新年会参加資格

- 一、彼岸とお盆にしかお寺に来ない人。
- 一、お寺はかたくなるしい所だと思っっている人。
- 一、仏教や禅に興味のある人。
- 一、お酒の好きな人。
- 一、おいしいものが好きな人。
- 一、圓福寺のお守りが欲しい人。
- 一、当日時間のある人。
- 一、今年一年の無事を願う人。
- 一、一回出席してみても楽しかった人。

右の参加資格のうち、一つでも該当する人は参加することができます。

日時 一月十八日(日)

午前十一時 新春ご祈禱
正午 新年懇親会

会費 三千元

(ご祈禱料、お守り、お膳・飲み物代を含みます。)

会費は当日受け付けます。

申込 お申し込みはお寺までご連絡下さい。

圓福寺花園会



- 西蔭光一
- 河西達雄
- 岡本正昭
- 福田和夫
- 平山 実



四国 巡礼街道 88

Shikoku jyunrei kaidou 88

納経とは

納経帳

お寺では、本堂と大師堂にお参りしたあと、納経所に立ち寄り「納経」する
通り「経」を「納める」ということで、お参りしたときに写経を納めて、その
衣、掛け軸などに朱印を頂くことをいうわけですが、現在では、写経を納め
ず。お堂の前には、「写経入れ」と「納札入れ」が別々に置いてあるのが普通

納経帳には、「奉納」の文字に加えて、本尊を表す梵字と本尊の名前、そして
札所の番号などの朱印を押してくれます。四国霊場では日付は入れません。一
ともありますが、いわゆる「納経書き」として雇われている人のこともあり、
客に対して、さらさらと慣れた手つきで書いてくれます。お守りを買ったりお
の方に書いていただいたものでもなく、ありがたみを感じられます。

納経には料金がかかります。お布施のように「お志しで」というわけではなく
金です。納経帳だけでなく、白衣の背中や専用の掛け軸に書いてもらうことも
通り決められています。

納経料金

受け付け時間

納経帳 300円

午前7時～午後5時

白衣 200円

掛け軸 500円

納経所は、原則として年中無休です。僕は、年末年始の休暇を利用して歩いた
記の時間帯は、納経所はちゃんと開いていました。足摺岬の金剛福寺で除夜の